

巻頭言

情報科学研究センター所長
霧 島 和 孝

『城西情報科学研究』は、今回で第 23 巻になります。本研究の研究論文については、第 11 巻からレフェリー制度を導入し、以来 13 年になります。その間、多くの先生方にご投稿いただき、深く感謝申し上げます。ただ、レフェリー制度を導入して以来、これまで英文の研究論文が投稿されただけで、それ以外の研究論文の投稿はありません。是非、今後、研究論文のご投稿をお願いいたします。また、本研究は、第 18 巻から印刷物にせずオンライン化され、城西大学の図書館のホームページから“いつでも、どこでも、だれでも”ご覧いただけるようになっています。

さて、今回は、研究論文はなかったものの、研究ノート 3 編（うち英文 1 編）、報告 2 編をご投稿いただきました。一昨年度まで 5 年連続で 7 編の最多投稿編数を続けてきた後、昨年度は報告 3 編と落ち込みましたが、今回はおかげさまで 5 編とやや盛り返しました。

詳細は各編に譲るとしまして、今回の研究ノート 3 編、報告 2 編につきまして一言のみ紹介させていただきます。研究ノートは、「超システムの観点からの経営情報システムに対する考察」、「浄化都市下水の植物工場での利用に関する研究」、「400mハードリングに関する実証研究」、報告は、「磁気カードを利用した出席管理システム導入 8 年の経過報告」、「第 16 回日本ジャンボリーでの情報通信機器の活用報告」です。いずれも興味深く充実した内容ですので、ぜひ各篇に目を通していただければと思います。

当面の情報科学研究センターの主要課題は、本学が目指す中期目標《7つの J-Vision》とりわけ「Vision5ーキャンパス環境の充実とグローバル化・ネットワーク化」の実現です。代表例としては次のような取り組みがあります。ハード面では今年度から 2 年間で学内全域における無線 LAN の環境を整備し、その後 3 年をかけて光ファイバーの入れ替えを計画しています。ソフト面では新体制となった昨年度から強化している学生および教職員に対するサポートです。その際、特に次の 2 点に注意しています。1 つはセンターが受身でいるのではなく、こちらから講習や出張指導などの開催を通じ積極的に関与していくことです。もう 1 つは、できるだけセンターの敷居を取り払いバリアフリーな状態にし、学生や教職員の皆様が気軽に相談できるようにすることです。

オンライン化されている『城西情報科学研究』のますますのご利用とともに、次回のご投稿をお待ちしております。